

1 本部例会	
2002年	日本音楽理論研究会 2002.10.26.(土)14:00～ カンマーザールin立川4F 第1回例会 統一テーマ:「音楽理論の現状と課題」 基調講演:島岡 譲「音楽理論とは何か?~私の場合」 シンポジウム:「音楽理論の現状と課題」 コーディネーター:島岡譲 パネラー:小川原美子 小川伊作 柳田憲一
2003年	日本音楽理論研究会 2003.5.24.(土)13:50～17:30 カンマーザールin立川4F 第2回例会 見上 潤:旋法理論 再構成の試み~教会旋法から近代旋法まで~ 小川伊作:バッハのフーガの旋法的分析の試みと若干の問題提起-平均律第1巻第1番BWV846のフーガ分析 三上かーりん:『詩から生まれた音楽』SchumannのLiederkreis op.39「トボスとしてのサブドミナント」 遠藤信一:ラヴェル「水の戯れ」の分析 日本音楽理論研究会 2003.10.4.(土)11:00～ GGサロン 第3回例会 統一テーマ「音楽教育の現状と課題」 基調講演:大宅 寛:「創作指導の体系試案としての大宅方式」 シンポジウム:「音楽教育の現状と課題」 コーディネーター:島岡 譲 パネラー:大宅 寛 楠瀬敏則 鈴木一真 遠藤信一
2004年	日本音楽理論研究会通信第1号発行 2004年4月1日 日本音楽理論研究会 2004.5.23.(日)13:50～17:30 GGサロン (東京都豊島区千早1-16-14現代ギター社4F) 第4回例会 発表1 小川原美子:楽曲分析 ドビュッシー「前奏曲集第I巻」より「IV 音と香りは夕暮れの大きに漂う」,「VII 亜麻色の髪」 発表2 見上 潤:「旋法理論 再構成の試み(2)音素材の淘汰・分類の方法論とその階層構造」 日本音楽理論研究会 2004.10.3.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第5回例会 講演1 中村佐和子:「ソナタ形式の授業風景」 講演2 楠瀬 敏則:「音楽の基礎教育の課題」
2005年	日本音楽理論研究会 2005.5.22.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第6回例会 修士論文1 小林直樹:「ショスタコーヴィッチの音楽語法」 修士論文2 角口琴英:「ペラ・バルトークの弦楽四重奏曲における音楽語法」 講 演 増田宏三:「グレゴリオ聖歌の音組織について」 日本音楽理論研究会 2005.10.2.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第7回例会 内容 基調講演1件 シンポジウム1件 基調講演 永富 正之:「日本におけるソルフェージュ教育の問題点-和声について-」 シンポジウム:「調性感の育成について」 コーディネーター:永富 正之 パネラー:島岡 譲、古曾志洋子
2006年	日本音楽理論研究会 2006.5.21.(日)13:50～5:30 AI(アイ)スタジオ 第8回例会 修士論文発表 齊藤慶子:「J.S.バッハ《フーガの技法》BWV1080の未完のフーガにおける全体像」 研究発表 小川原美子:「楽曲に隠された声部様式」 柳田憲一:「終止(D-T)におけるV諸和音の形態変化について~Noël-GALLONの84 solfège des concoursより~」 日本音楽理論研究会 2006.10.1.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第9回例会 内容:フォーレの歌曲~詩と楽曲分析 発表者:島岡 譲 金原礼子
2007年	日本音楽理論研究会 2007.5.20.(日)13:50～17:40 AI(アイ)スタジオ 第10回例会 1 修士論文発表 稲崎 舞:「ストラヴィンスキー《ふくろうと小猫ちゃん》分析と解釈」 2 旋法と和声:ガテンコ対決 発表とシンポジウム 見上 潤 「【旋法理論 再構成の試み 3】教会旋法の巻 ~今日からあなたも教会旋法の達人!~」 小川伊作:「実作品にみる旋法的和声」(レイス・ミランのファンタジアの分析) 教会旋法ガテンコ対決:小川伊作 vs 見上 潤 日本音楽理論研究会 2007.10.7.(日)13:50～17:40 AI(アイ)スタジオ 第11回例会 注目!音楽言語学の試み 講師:島岡 譲
2008年	日本音楽理論研究会 2008.5.18.(日)13:50～ AI(アイ)スタジオ 第12回例会 1. 古曾志洋子:「和声学をはじめる前に-島岡 譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ』(2006.)を心地よく読み、納得できる耳を育てるソルフェージュとは?」 2. ローラン・テシュネ:「明日のためのソルフェージュ教育」 (Laurent Tevchenev: "Pour l' enseignement du solfège de demain") 日本音楽理論研究会 2008.10.5.(日)13:50～5:40 AI(アイ)スタジオ 第13回例会 大注目!続・音楽言語学の試み 講師:島岡譲
2009年	日本音楽理論研究会 2009.5.17.(日) 13:50-17:40 AI(アイ)スタジオ 第14回例会 テーマ:「ドイツ・リート 詩と音楽」 第1部 三上かーりん:恋の双六-シューマン《詩人の恋》調性による心理学的場面転換- 第2部 島岡 譲:ドイツ・ロマン派の音楽語法 -シューマンの"語り"を読み解く- 日本音楽理論研究会 2009.10.4.(日) 13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ 第15回例会 テーマ: 音楽におけるカオスとコスモス 第1部 見上 潤: ベルク《7つの初期の歌曲》の近代和声語法 -第1曲「夜」における無調性(カオス)と調性(コスモス)の対照原理- 演奏:ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤 第2部 永富正之: ハイドンのオラトリオ「天地創造」の"混沌"の和声法

- 2010年 日本音楽理論研究会 2010.5.16.(日) 13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第16回例会
第1部 今野哲也: (13:30-15:25)
ベルク《アルテンベルク歌曲集》の楽曲分析 —第2~4曲を中心に—
第2部 小川伊作: (15:45-16:40) ビウエラ歌曲にみる悲劇性の表現
アロンソ・ムダラAlonso Mudarra《ダヴィデ王は悲しんでいた Triste estava el Rey David》
ソプラノ独唱: 小川えみ ビウエラ: 小川伊作
- 日本音楽理論研究会 2010.10.3.(日) 13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第17回例会
内容: シューベルト《美しき水車小屋の娘》詩と音楽の分析
講師: 島岡 謙: 第6.7.10.12.16.19.20曲の音楽分析
★同日ブレ企画: シューベルト《美しき水車小屋の娘》全曲演奏会 10:30-12:00
ソプラノ独唱: 小川えみ(音楽理論研究会専属歌手) ピアノ: 見上 潤
- 2011年 日本音楽理論研究会 2011.5.15.(日)12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第18回例会
統一テーマ: J.S.バッハの作曲技法とその近代音楽への射程<p>
1. 小河原美子:「バッハの平均律第2巻23番のフーガにおける対位法技法と和声」
2. 大野聡:「バッハの作品にみられるソナタ形式の萌芽」 13:40-15:20
3. 宮川直己: 報告「音楽アーカイブ設立のお知らせ」 15:40-15:50
4. 福田由紀子:「『ゆれの理論』から見たDebussy音楽の分析」 15:50-17:30
- 日本音楽理論研究会 2011.10.2.(日)10:30-16:40 AI(アイ)スタジオ
第19回例会
統一テーマ: 一詩と音楽から読み解くシューベルト《冬の旅》—
第1部 三上かりん・見上 潤:「詩から読み解くユニゾンの音楽的意味 Schubert Winterreise」
第2部 島岡 謙: レクチャー「音楽の言葉で読み解くシューベルト《冬の旅》」
- 2012年 日本音楽理論研究会 2012.5.13.(日)10:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第20回例会
統一テーマ: 一続・詩と音楽から読み解くシューベルト《冬の旅》—
1. 特別演奏: Schubert《Winterreise》ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上 潤
2. 浅田秀子「シューベルト『冬の旅』の裏物語—冥界のヘルメス」
3. 島岡 謙:「続・音楽の言葉で読み解くシューベルト《冬の旅》」(第19回例会の続き)
- 日本音楽理論研究会 2012.10.7.(日)13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第21回例会
1. 川崎瑞穂: 「洋楽渡来と野生の思考(パンセ・ソバージュ) —洋楽流入期における民俗的思考に関する構造人類学的研究—」
2. 川本聡胤:「プログレッシヴ・ロックの研究 ~ELP《タルカス》の分析~」
- 2013年 日本音楽理論研究会 2013.5.19.(日)13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ 【リヒャルト・ヴァーグナー生誕200年特集】
第22回例会
1. 見上潤:「トリスタン和声が醸し出す妖しい響きについて考える」 ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上潤
2. 磯山雅: 「ワーグナーにおけるドミナントの拡大について」
- 日本音楽理論研究会 2013.10.6.(日) 13:25-17:45 AI(アイ)スタジオ
第23回例会
1 小泉優莉菜:「かくれキリシタンの唄おらしよ〜長崎県生月島西部地域の音楽的事例研究〜」
2. 鷺淵泰通:「短三和音に特殊な、内在的不協和性の自然的根拠」
■博士課程学位取得者研究報告
3. 池原舞:「ストラヴィンスキーの《レクイエム・カンティクルス》における作曲プロセス」
4. 今野哲也:「アルバン・ベルクの初期歌曲の「和声構造」——調性および「無調性」の分析理論の批判と分析方法の試論
- 2014年 日本音楽理論研究会 2014.5.18.(日) 13:30-17:50 AI(アイ)スタジオ 【ロシア音楽特集】
第24回例会
1. 川崎瑞穂:【研究報告】「ロシア構造言語学と音楽分析 —— 奥秩父山地の民俗音楽に関する音韻論的研究 ——」
2. 池原舞:【研究報告】「ストラヴィンスキー《結婚》における旋律の拍節構造と小節線」
3. ミニコソート: =ロシア歌曲のひとつき= (分析・解説資料配布)
1. スクリャービン《ロマンス》(ca.1893)
2. ラフマニノフ《歌うな、美しき女よ》Op.4 no.4 (1893)
ソプラノ独唱: 小川えみ(本研究会専属歌手) ピアノ: 見上潤
4. 佐野光司:【研究報告】「スクリャービンの神秘和音《交響曲第5番プロメテ》に至る過程」
- 日本音楽理論研究会 2014.10.5.(日) 13:30-17:50 AI(アイ)スタジオ 【ロシア音楽特集】
第25回例会
1. 平本 幸生:【研究報告】「自作曲の分析と、ブルーノート・ペンタトニックスケールについて」
2. 石川 智寛:【研究報告】「バルトーク『ルーマニア民族舞曲』sz.56 より第2曲「帯踊り」の機能と声理論による分析」
3. 夏田 昌和:【研究報告】「自作曲〈2種の形象〉によるコンポジション“J.S.Bへのオマージュ”」(2013)の分析」
4. 小川 伊作:【研究報告】「新しい楽典の試〜『ギター譜で学ぶ新楽典』〜著者自身による解題」
- 2015年 日本音楽理論研究会 2015年5月17日(日)13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第26回例会
1. 水原真理:「アメリカの総合大学音楽教育事情:実技専攻と理論に関して」
2. 隼田義博:「マリア・シュナイダーの音楽とモーダルハーモニー」
3. 今野哲也:「A.ベルク《抒情組曲》第1楽章の「原音列」の再考察(2)―「音階型」の導出を観点とした―」
4. 夏田昌和:「Schumannの<子どもの情景>より「トロイメライ」、<子どもは眠る>と、自作くよく眠るための内気なセレナーデ」の分析」
- 日本音楽理論研究会 2015年10月4日(日)13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第27回例会
1. 岩河智子:「アナリーゼによるオペラ表現探究の楽しみ」(歌劇「フィガロの結婚」より、喧嘩の二重唱、「雪の降るまちを」)
歌手: 萩原のり子、窪田晶子(札幌室内歌劇場)
2. 川崎瑞穂:「民俗芸能の音響分析試論―「坂部の冬祭」における太鼓のリズム型と、神楽囃子「テケツットン」との関係性」
3. 小川伊作:「ルネサンス音楽のムジカフィクタとアナリーゼ」
- 2016年 日本音楽理論研究会 2016年5月15日(日) 13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第28回例会
1. 中野敏男:「詩歌と戦争 白秋と戦争、総力戦への「道」」
2. 演奏:「北原白秋vs.山田耕筰の歌曲」ソプラノ: 小川えみ(当会専属歌手) ピアノ: 見上潤
3. ディスカッション:コメンテーター: 今野哲也(音楽理論)、布施木誠(精神科医)川崎瑞穂(日本民俗音楽)、川本聡胤(ポピュラー音楽) コーディネーター: 見上潤(音楽分析)
- 日本音楽理論研究会 2016年10月2日(日)12:20-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第29回例会

1. 大高誠二:「冬の旅」におけるシューベルトのフレーズ技法(第1, 2, 3, 8曲)
演奏 ソプラノ:小川えみ(当会専属歌手) ピアノ:見上潤
2. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28」
—楽曲構造とピアノリズムの分析— その4 (9番、10番、12番、17番)
3. 今野哲也:「島岡譲の理論に基づく」We are the Champions」の分析
—QUEENにおける「ゆれ」と「かげり」——
4. 平本幸生:「自作曲の分析とキーボードハーモニー ～三声体と声 伴奏の魅力～」

2017年 日本音楽理論研究会 2017年5月14日(日) 13:30-17:40 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ 【島岡譲の音楽理論について】
第30回例会

1. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28」
—楽曲構造とピアノリズムの分析——その5(20番、22番、23番、24番)
2. パネルディスカッション: 島岡譲の音楽理論の形成史から学ぶ
パネラー:遠藤信一、川本聡胤、今野哲也、平本幸生、福田由紀子、見上潤

日本音楽理論研究会 2017年10月1日(日) 13:20-17:40 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第31回例会

1. 遠藤信一: 山田耕祐 和声研究(赤とんぼ)
2. 久次米祐江: E.サティ作曲《ヴェクサシオン》についての分析と演奏解釈
3. 今野哲也: J.ブラームス《アルト・ラブソニー》Op.53の和声構造—大規模声楽曲に対する「ゆれ」の理論のアプローチ

日本音楽理論研究会 2018年5月13日(日)13:18-17:55 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第32回例会

1. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集」作品28 —楽曲構造とピアノリズムの分析— その6 まとめ
2. 中島洋一:「音楽で世代を超えて何を伝えることができるか」
3. 伊藤麻衣子:ワークショップ『オルティンドー(モンゴル民謡長歌) フールフン ハリオン(可愛い愛馬)の歌唱法』

日本音楽理論研究会 2018年10月7日(日)12:20-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第33回例会

1. 谷和明:シューベルト《冬の旅》テキストの社会思想的解釈の試み
2. 今野哲也:F.シューベルト交響曲第7番短調D759「未完成」の和声構造
3. 瀬川裕美子:プーゼの内的必然性とは～ピアノソナタ第3番をめぐる～
4. 川本聡胤:ヴィジュアル系J-POPの楽曲分析

日本音楽理論研究会 2019年5月12日(日)13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
第34回例会

1. 遠藤信一:「ラヴェル《水の戯れ》の分析」
2. 谷和明:「《冬の旅》における「村人」の位置と意味 ——ミユラーとシューベルトの差異に着目して」演奏
ソプラノ:小川えみ(当会専属歌手) ピアノ:見上潤
3. 宇野友子:「ビリー・ジョエルの “Just the way you are” におけるハーモニーとテクスチャー」

2 支部例会 会場: 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ

1 大分支部例会

- 2002年 第1回大分例会 2002.11.16.(土)10:00～17:00 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
講師:島岡 譲
講義内容:午前「和声の文法」～音楽分析の基礎 午後:実作品の分析(ドビュッシー:「アラベスク1番」および前奏曲集第1巻「沈める寺」)
- 2003年 第2回大分例会 2003.11.15.(土)10時～17時 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
講師:島岡 譲
テーマ:バッハ平均律クラヴィア曲集の分析
「楽曲分析の基礎」と「楽曲分析 平均律クラヴィア曲集 I 巻 第1番BWV846・第2番BWV847・第13番BWV858・第16番
- 2004年 第3回大分例会 2004.11.21.(日) 大分県立芸術文化短期大学 芸術棟3F講義室A
内容 特別講義:シューベルト作曲「冬の旅」
講義1 三上かーりん:「詩から生まれた音楽(冬の旅)～シューベルトの歌曲集を辿る」
講義2 島岡 譲:楽曲分析
- 2005年 第4回大分例会 2005.11.20.(日) 大分県立芸術文化短期大学 芸術棟3F講義室A
1. 小河原美子:楽曲分析:ドビュッシー「前奏曲集」1巻より「デルフィの舞姫」'帆'ほか
2. 三上かーりん: 楽曲分析:シューベルト「魔王」
- 2006年 第5回大分例会 2006.11.12.(日)10:00～17:00 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
テーマ:フォーレの歌曲～詩と音楽の分析
講師:島岡譲(国立音楽大学名誉教授)、金原礼子(元筑波大学教授)
分析対象曲:「リディア」「イスファハンのばら」「月の光」ほか(すべて原調)
- 2007年 2 東京支部例会
第1回東京例会 2007.7.29.(日) 13:00-17:40 杉並公会堂 Aスタジオ
1. 今野哲也:「クリスタル和音 理論化への試み ——古典から近代まで——」
2. 大野聡:「シューベルトピアノソナタ変ロ長調D. 960第一楽章の分析—ロマン期のソナタ形式の一例として—」
3. 岡崎登代子:「J.S.バッハ 平均律クラヴィア曲集第2巻第13番 Fis-durフーガをめぐる」
4. 見上 潤:【旋法理論 再構成の試み 4】5音階のトリコルド分析とその応用諸形態」
- 2008年 第2回東京例会 2008.3.30.(日) 12:40-17:30AI(アイ)スタジオ
1. 見上 潤:【旋法理論 再構成の試み5】教会旋法と調性 ～調のコンステレーションとその意味論～
2. 生塩曜:ドビュッシー《牧神の午後への前奏曲》に見られる調性拡張の試み
3. 齊藤 紀子:ショパン《練習曲集》作品10及び作品25の統合性に関する一考察
4. 今野哲也:ヴァーグナー《トリスタンとイゾルデ》前奏曲の分析—導7の和音の「ひびき」を中心とした——
5. 大高誠二:音階の構造と機能理論の関係 ～和音を分解的に捉える試み
- 第3回東京例会 2008.8.3.(日) 12:30-17:30 AI(アイ)スタジオ
1. 福田由紀子: 構造分析における調と和声の重要性 (J.S.Bach, Partita Nr.1 B dur)
2. 岡崎登代子: J.S.Bach, Das wohltemperierte Klavier II Nr.17 As durPraeludium und Fuge
3. コラム講義 島岡 譲:【解題『総合和声』原理篇】「半ずれ」とは何か?—ドビュッシー《前奏曲集》第2巻《カノーブ》の解釈
4. ワークショップ 瀧廉太郎(納涼)(1900、明治33.)の分析と演奏法
A. 小川伊作: 瀧廉太郎再発見! 音楽史とエクリチュールののはざままで—組歌『四季』第2曲「納涼」を巡って—
B. 見上 潤: 声楽的観点を取り入れた歌唱ソルフェージュの実践的考察—瀧廉太郎《納涼》を題材にした音高・リズム・
母音の立体的構造の分析—
- 2009年 第4回東京例会 2009.3.29.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
統一テーマ:【声楽曲分析の方法と課題】
1. 大野聡: 超入門ドイツリートの世界—シューベルト有節歌曲の魅力—
《野ばら》《トゥーレの王》《笑いと涙》《さすらい人の月に寄せる歌》
2. 今野哲也: いま明らかされる「ひびき」の秘密—調性と無調性の狭間で—
3. 見上 潤:「ことば・おと・こえ」三位一体理論」全貌公開

- 3.1."知られざる"ショパン歌曲《僕のいとしい人》の総合分析
- 3.2.ポーランド語歌詩の発音・文法分析+音楽分析+ドルチェカント歌唱法による 参加型演奏研究-
4. パネル・ディスカッション:【ガテンコ放談】音楽理論、生かすも殺すもあなた次第!!!
コーディネーター:見上 潤 パネリスト:阿久津東真 大野聡 今野哲也 横山聡

第5回東京例会

2009.7.26.(日)12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第1部 岡崎登代子: J.S.バッハ《平均律クラヴィア曲集》第2巻第23曲長調 前奏曲とフーガの構造と和声
第2部 ガテンコ対決: 初期ベルクの音楽語法を斬る! -《4つの歌曲》作品2をめぐって-
1. 見上 潤: 初期ベルクにおける移眼音素材(Otogenom理論による)の使用法について -《7つの初期の歌曲》より「夜」の分析を中心にして-
2. 今野哲也: ベルク《4つの歌曲》作品2より第2曲、第3曲の分析
3. ディスカッション
演奏: ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤

第6回東京例会

2009.12.20.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第1部 岡崎登代子: J.S.バッハ《平均律クラヴィア曲集》第2巻第21曲 B-dur 前奏曲とフーガの構造と和声 (12:30-
第2部 続・ガテンコ対決: 初期ベルクの音楽語法を斬る! 今野哲也vs.見上 潤:
-アルバン・ベルク《4つの歌曲》作品2第4曲と近代和声の分析法をめぐって-
演奏: ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤

2010年 第7回東京例会

2010.3.28.(日)10:30-16:40 AI(アイ)スタジオ
1. 福田由紀子: Johannes Brahms作曲「6つのピアノ小品 作品118」の和声技法の解明
2. 小田裕之: ヨセフ・スク《子守唄》作品33(Josef Suk, Ukolé bavkv Op.33)の作品分析と演奏法
第8回東京例会 2010.12.19.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
1. 見上 潤: シューベルト《美しき水車小屋の娘》《冬の旅》の調性構造の比較と階名(移動ド)唱法のテクニク-音楽家のための音楽分析入門-
2. 横山聡: ピアノの性能と演奏時の身体性を考慮した音楽分析-ショパン《練習曲集》作品10-1 C-durの理想的な演奏再構築のために
3. 大高誠二: 標題未定 (拍節の定義やその本質に関するテーマ)
4. 水崎寛明: コンピューター解析による転調理論構築の試み

2011年 第9回東京例会

2011.12.18.(日) 12:30-17:40
チーム発表:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》をめぐって」-移調の限られた旋法・島岡ゆれ理論の近代和声への応用・メシアンの色彩構成- 赤坂樹里亜 西山タカスケ 見上 潤
1. 見上 潤:「今日からあなたも“移調の限られた旋法”の達人! -メシアンM.T.L.攻略法伝授-」
2. 赤坂樹里亜:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》(1928-29)のアナリゼ」
3. 西山タカスケ:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》(1928-29)の色彩構成 -メシアン・メモのリアリゼーション-」

2012年 第10回東京例会

2012.3.25.(日) 12:30-17:40
1. 横山聡:「続・ピアノの性能と演奏時の身体性を考慮した音楽分析-ショパン《練習曲集》作品10-1 C-dur、及び作品 25-12 c-mollの理想的な演奏再構築のために-」
2. 福田由紀子:「Debussyの音楽に見るほかしの技法」(前奏曲集第2巻「花火」の分析)
3. 今野哲也:「ベルク《叙情組曲》の分析」

第11回東京例会

2012.12.16.(日) 12:30-17:40
=ベートーヴェン特集=
1. 大野聡:「単純な和声に支えられた単純な動機から作りだす壮大な展開(ドラマ)」(12:30-)
(ベートーヴェン《交響曲第3番》《弦楽四重奏曲第7番》の第一楽章)
2. 佐野光司:「ベートーヴェンの新しい道」(15:00-)

2013年 第12回東京例会

2013.3.31.(日) 13:30-17:40
1. 寺内克久:「スタンダードナンバー“Autmun Leaves”のアレンジバリエーションにみるジャズ表現の可能性」(13:30-14:30)
2. 今野哲也:「タイトル詳細未定 (ベルク《山を越えて》(U"ber den Bergen)の分析)」(14:30-15:30)
ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上潤
3. 浅田秀子:「続・シューベルト『冬の旅』の裏物語-異界のヘルメス」(15:50-17:30)

第13回東京例会

2013.12.8.(日) 13:30-17:45 AI(アイ)スタジオ
1. 平本幸生:「自作曲の分析と、和声学の例外的用法」
2. 大野聡:「モーツァルトにおけるソナタ形式と多声音楽技法の出会い(モーツァルト《弦楽四重奏曲第14番ト長調》K.387 第4楽章)」
3. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28(No.1,4,7,8,13,14,15)」-楽曲構造とピアノリズムの分析-

2014年 第14回東京例会

2014.3.30.(日) 13:25-17:40 AI(アイ)スタジオ
1. 阿久津東真:【研究報告】「イタリアオペラはなぜ面白い? ~イタリア語を知らなくても楽しめるその秘密を探る~レオカヴァッロ《道化師》を題材にして」 ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上潤
2. 寺内克久:【研究報告】「The Beatlesの和声進行分析から、コード進行による作曲技法を考える」
3. 大高誠二:【研究報告】「拍節の中の和声~音の重なりを超えて」
4. 稲森訓敏:【特別講義】「音楽のリズム」-マティス・リュシーとあなたの《演奏・指導》を変える彼の実用的リズム理

第15回東京例会

2014.12.14.(日)12:30-17:50 AI(アイ)スタジオ
1. 阪本佳郎:「トニ・ガトリフの映像詩学における音楽の位相-ジプシーアイデンティティの表象を軸として-」
2. 見上 潤:「ブッチャーニ《蝶々夫人》よりアリア「ある晴れた日」の分析 -「ことば・おと・こえの三位一体理論」による-」
3. Neral:「サンプリングカルチャー、DJ カルチャー以降の音楽家のための実践的な音楽理論書」である自著『Traditional Music Theory For Contemporary Musicians』執筆の動機と特徴の紹介
4. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28」-楽曲構造とピアノリズムの分析- その2 (No.2, 5,

第16回東京例会

2015.3.29.(日)12:30-17:50 AI(アイ)スタジオ
1. 見上 潤:「チャイコフスキー《ただ憧れを知る者だけが》Op.6 No.6(1869)の分析 -「ことば・おと・こえの三位一体理論」
2. 三浦慎哉:「V.F. オドエフスキーの音楽思想-19世紀前半のロシアにおける西欧芸術音楽の受容をめぐって」
3. 池鷹舞:「ストラヴィンスキーの作曲法-五線紙の切り貼りをめぐって」
4. 寺内克久:「ユーミン楽曲レポートと音楽的クオリアによる作曲の可能性」副題:日本人の心の情景を変えたシンガーソングライターへの手紙」
5. 川本聡胤:「JPOPの「J」」
6. 左原詩音:「ペンデレツキの音響主義~クラスターとノイズの概念、ポーランド楽派について~」

第17回東京例会

2015年12月13日(日)13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
会場:
1. 福田由紀子:「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28」-楽曲構造とピアノリズムの分析- その3 (No.3,6,11,18,19)」
2. 大高誠二:「音楽のフレーズ構造とその結合の技法(原理編)-ベートーヴェンのピアノソナタ第1番第1楽章を解体する」
3. 隼田義博:「ロン・ミラーの35の旋法和音について」

第18回東京例会

2016年3月27日(日)13:30-17:50 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
1. 大高誠二:「音楽のフレーズとは何か-その議論の基礎と和声との関係-」

2. 寺内克久:「スティービー・ワンダーの和声の暗号を解け! ~非視覚的に考える作曲技法の考察~」
3. Neral:「シェーンベルクの和声法」
4. 清川隼矢:「n平均律による自作曲と、その音楽理論について」
5. 水崎寛明:「自動和声付けシステムのための新たな基礎理論~調性とはなにか」

第19回東京例会

- 2016年12月11日(日) 13:30-17:50 国立音楽大学A1(アイ)スタジオ
1. 平本幸生:自作曲の分析とキーボードハーモニー結合音の存在とその音楽的意味
 2. 悪原至:ヤニス・クセナキスPsapphaにおけるサッフォー風スタンザ
 3. 陣内みゆき:オリヴィエ・メシアン作品研究の現在と《アッジの聖フランチェスコ》

第20回東京例会

- 2017年3月26日(日) 13:30-17:40 国立音楽大学AI(アイ)スタジオ
1. 土屋 憲靖(国立音楽大学 演奏・創作学科 作曲専修3年):ドビュッシー『前奏曲集第二巻』より「霧」の楽曲分析~正体をばかす霧~複調~の手法を読み解く~」
 2. 伊藤 彰:ヘルムート・ラッペンマンの音楽作品《テムアー》(1968)に関する考察——ジェルジ・リゲティ《アヴァンチュール》(1962)との比較を通じて——
 3. 長井 進之介(国立音楽大学大学院 博士課程研究生):Fリストの歌曲におけるテキストと調のかかわり
 4. 井上 征剛(山梨英和大学 准教授):大学における教養教育と音楽学——音楽を専門としない学生向けの授業で音楽理論をどのように活用するか——

第21回東京例会

- 2017年9月30日(土) 13:30-17:00 国立音楽大学5-219教室
1. 高徳真理(国立音楽大学修士課程):「ドビュッシーと歌曲《雅やかな宴Fêtes galantes》~(ひそやかにEn sourdine)にみる愛と絶望の夢想」
 2. 倉脇雅子(お茶の水女子大学博士課程):「ヨアヒム・ラフ作曲 交響曲第5番《レノレ》Op.177の統合法について—4度の動機を中心に—」
 3. 大島徹(昭和音楽大学など非常勤講師):「初期レコード産業のクラシック音楽の取り込みとその消費について」

第22回東京例会

- 2019年1月26日(土)13:30~17:00 国立音楽大学 5-208教室
1. 吳嘉欣(電気通信大学;共著者:清水祐輔,沼尾雅之):「楽曲記述言語 MusicXML を用いた 楽曲分析の自動化」
 2. 土屋 憲靖:「ドビュッシー《前奏曲集第二巻》より《枯葉》の楽曲分析——近代和声書法の分析および文学的背景についての総説——」
 3. ファティ・フェヒム Fati Fehmiju(国立音楽大学博士課程):「コンピュータ音楽への『ポリスタイリズム』導入の可能性」

第23回東京例会

- 2019年1月26日(土)13:30~17:00 国立音楽大学 5-208教室
1. 蔣斯汀(国立音楽大学博士課程創作領域):「ゴースト」の開発に向けて—ライブ・エレクトロニクス音楽と生演奏とのシン
 2. 陣内みゆき(国立音楽大学大学院 博士課程(音楽学)3年次在籍):オリヴィエ・メシアン《世の終わりのための四重奏曲》《抑留者たちの歌》《われ死者の復活を待ち望む者なり》における多層構造
 3. 伊藤 彰:ヘルムート・ラッペンマンの創作における音色的連関に関する一考察—《マッチ売りの少女》(1997—99/2007)を含む音楽作品を中心に—